

次世代型科学教育の新たな拠点について

1 背景・課題

- 科学は私たちの暮らしと密接にかかわり合っている。それらは生命・環境・自然等の身近なものから、数億光年もの遠い宇宙のこともあれば、何億年もの昔の化石から学んだり、未来を予測する最先端の科学に触れることもある。このように、時間的にも空間的にも膨大な広がりを持つ科学の全てを学校教育だけで学ぶことは不可能である。また、子どもにとっても大人にとっても、身の回りの事象に親しみ、興味を持って科学を学ぶことは、区民の科学への理解を増進し、科学技術の活用の可能性を高め、より豊かな生活の実現につながるものである。
- 現在、生涯学習分野における科学教育は、社会教育センターを当面の拠点とし、区内の地域施設を活用して科学博覧会や天文学習会などを行う、次世代型科学教育事業¹を実施している。しかし、最先端の科学の提供、科学に興味関心を持った区民がより深く科学を探究できるような情報提供機能や相談に対応するスタッフ、さらに科学に知識の深い人材の発掘・育成や科学教育団体の活動支援にも限界が生じている。また、事業を更に拡充する上で、実施するプログラムが機能面での制約を受けることがない環境整備を進める必要がある。
- このようなことから、今後の生涯学習としての科学の学びや事業の拡充を図るには、次世代型科学教育事業により、身近な地域で区民が科学を学ぶ機会を維持しつつも、広く子どもから大人まで世代を超えて科学に親しみ、生涯にわたって学び続けることができる機会や環境を備えた新たな拠点が必要である。

2 整備の目的 —共に学び共に支え共に創る未来を拓く—

- 最先端の科学を究める人やつくる技術に触れることで、学びへの気づきや探求する意欲を引き出す。
- 学び合いを通じて人と人、人と科学をつなげ、コミュニティの醸成につなげる。
- 深めた学びを区民が自ら地域で活用することや、次の世代の科学教育に生かせるようにする。
- 誰もが学び続けることができ、学びの成果を社会に生かし世代を超えて活躍する生涯学習社会の創出に寄与する。

3 整備方針

- 未就学児から高齢者に至る様々な世代の区民が、気軽に訪れることができ、何度でも来館したいと思う参加型・体験型の魅力ある科学のプログラムを企画し提供する場
- 科学に対する主体的な学び(研究)や、能力・才能の伸長につながる継続的な学び

¹ 身近な学校や地域施設に出向き、必要に応じて科学教育関係団体等と連携・協働し科学教育事業を行う「出前型・ネットワーク型」の事業

(研究)の支援及び人材育成の場

- 科学に関する語り合いができるなど、気軽なコミュニケーションの場
- 科学教育団体、研究機関や企業等のネットワークを構築するとともに、科学教育団体等と連携し、身近な地域施設に出向いて科学の魅力を発信する「出前型・ネットワーク型」の科学教育事業の企画立案と実践の場

4 学び手（利用者）

未就学児から高齢者に至る、幅広い区民を対象とする。なお、学び手が、自らの関心や習熟度に合わせてプログラムを選択できるようにするとともに、「学びの成果を生かしたい」、更に一歩先を行く、「研究・開発・ものづくりを行いたい」と考える学び手にも対応していく。

5 実施場所

次世代型科学教育の新たな拠点は、交通至便な立地を踏まえて、杉並第四小学校跡地に整備する。また、出前型事業は、各地域区民センター等、身近な地域施設で実施する。

6 実施事業

(1) 次世代型科学教育の新たな拠点での実施事業 **来館型**

① 参加型・体験型のプログラムの企画・実施

科学の魅力に触れることで興味関心を引き出すことや、科学的思考力の向上につながる取組を行う。

- ・未就学児を中心に様々な世代の科学への興味関心の入口として、気軽に楽しみながら科学に触れることができる企画の提供
- ・小・中学校の学びに留まることなく、科学への興味や学びの意欲をさらに引き出す企画の提供
- ・日用品や食べ物、健康や人体に抱く不思議など、科学を身近に感じることができる生活に根付いたテーマによる企画の提供
- ・日々進展する最先端の科学に触れることができる企画の提供

② 継続的な学び(研究)の支援と人材育成

専門的な研究、開発活動の支援やサイエンスコミュニケーション²の担い手となる人材育成につながる取組を行う。

- ・専門家による相談体制やレファレンスサービスなど、科学に関する様々な疑問の解消や課題の解決につなげるための支援

² 科学に関する多様な体験や触れ合う機会を提供し、広く子どもから大人まで、相互のつながりや関わり合いを促進する事業

- ・学習やものづくりのための場を整備するなど、主体的な学びや研究の支援
- ・学びの成果の発表やディスカッションを通じて、相互学習と交流の機会を創出

③ ネットワークの構築と活動支援

育成した担い手の有効活用や取組に対する適切な支援につながる幅広いネットワークづくりのための取組を行う。

- ・区内に潜在する科学に造詣の深い人材や、サイエンスフェスタでの実績を生かしながら、科学分野で活動する団体の掘り起こし等を行い、幅広いネットワークの構築を促進する
- ・区内の実態に合わせた取組や地域からの求めに応じていくため、科学教育事業を通じて育成した担い手の有効活用を図り、ネットワークによる活動を支援する

(2) 身近な地域施設等での実施事業 **出前型**

科学に親しみ科学を学ぶ機会を提供するため、次世代型科学教育の新たな拠点で実施する参加型・体験型プログラムのうち、他の地域施設等で実施可能なものについては、これまでの次世代型科学教育事業の継承を含め、科学教育団体や育成した人材を活用しながら区内各地で実施する。

【参考資料】次世代型科学教育の新たな拠点の事業イメージ

※参考資料は、区が考える次世代型科学教育の新たな拠点がイメージしやすいよう、具体的な事業の例として作成したものです。あくまでも、参考のためですので、これに捉われる必要はありません。